**「食品ロス」に関するアンケート　リサーチプラン**

1. 調査の背景と目的

食べられるのに捨てられている食べ物、いわゆる「食品ロス」が日本では年間約632万トンにも上り、うち家庭からは302万トンが排出されていると推計されている。これは、世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた食料援助量に匹敵し、食品ロスは、環境面だけでなく、経済的社会的課題となっている。そういった状況の下、各地で食品ロスに関する取組みが広がりつつあり、今後の大阪府における食品ロスの削減に向けての施策等の資料とするため、府民の食品のロスに対する意識や行動を調査する。

1. 調査仮説

仮説１　「食品ロス」という言葉を知っている人、賞味期限と消費期限の違いを理解している人の方が、食品廃棄が少なくなるよう意識や行動をとっている。

仮説２　年代や家族構成、住んでいる地域のごみ施策によって、食品廃棄への意識や行動に差がある。

仮説３　「環境や社会貢献」よりも「もったいない」を重視する人の方が、食品廃棄が少なくなるよう積極的に行動する傾向にある。

仮説４　年代や家族構成によって、食品ロスの主な発生理由は異なる。

仮説５　食品ロスに係る家計の損失額を知る前と後では、後の方が食品ロスへの取組みに対し積極的になる。

1. 調査対象　20代～60代以上の各年代200名ずつ
2. 予備質４問

本質問２１問

1. 質問

＜予備質問＞

SC１　性別

SC２　年齢

SC３　都道府県

SC４　市町村

＜本質問＞

1. 普段買い物や調理をするか（表組）
2. 「食品ロス」という言葉の認知度(SA)（言葉も意味も知っている・言葉は知っている（聞いたことがある）・知らない（聞いたことがない））
3. 【知っている・聞いたことがある】その認知媒体(MA)
4. 食品の廃棄や食べ残しを減らすよう意識や行動をしているか(SA)
5. 【している人】の理由(MA－３順位)
6. 【していない人】の理由(MA)
7. 食品を使わずに廃棄したり、食べ残す原因別頻度(表組)（よくある・たまにある・ほとんどない・ない）

　①量が多かった・作り過ぎた（家食）②量が多かった（外食時）③まずかった④可食部分の過剰除去⑤賞味・消費期限切れ⑥鮮度低下や腐敗

1. 【よくある・たまにある人】食品を使わずに廃棄したり、食べ残すことが多い食品は何か(MA)
2. 賞味期限と消費期限の理解(ＳＡ)
3. 賞味期限が過ぎていても食べる（調理する）か（MA）
4. 普段の行動（食品ロスの削減につながるもの）(MA)
5. 買い物時の判断基準(MA)
6. 【食品の廃棄（食品ロス）による家計への損失推計を提示し改めて質問】食品の廃棄（食品ロス）を減らすために取組みたいと思うか。
7. ゴミ出しをしているか(SA)
8. 外食・中食の頻度（表組）
9. これまで、食べ物の大切さについて家庭や学校で学んだ経験があるか(SA)
10. 家族構成１(SA)
11. 家族構成２(SA)
12. 住まい（マンション・戸建て等）(SA)
13. 家計の管理をしているか(SA)
14. 収入(SA)
15. 検証方法

仮説１　Q２、Q９×Q４

仮説２　年代、居住地（ゴミ袋有料化の有無）、Q17（18）×Q４

仮説３　Ｑ５（順位１）×Ｑ11（反応個数）

仮説４　年代、Ｑ17(18)×Ｑ７

仮説５　Ｑ４及びＱ13の比較